

# りんご栽培情報 第6号

令和5年8月28日  
J A ア ル プ ス  
富山県富山農林振興センター

## 1 概況

園芸研究所果樹研究センターの調査では、8/17（満開122日後）の「ふじ」の果実横径は、73.5mm（前年比100、平年比98）で、前年、平年並みとなっています。

今後も高温・乾燥が続くと予報されており、現在ハダニが少ない園地でも急増する恐れがあります。また、一部で褐斑病の発生も見られており、適期防除を心掛け、高品質なりんご生産に努めてください。

## 2 病虫害防除（成園）

### （1）今後の病虫害防除

（散布量は500ℓ/10a）

回	時期	対象病虫害	散布薬剤名	使用時期 （※1）	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
16 （※2）	9月上旬 （前回防除の 10日後頃）	褐斑病、すす点病、 すす斑病 シンクイムシ類、ケムシ類 展着剤	トップジンM水和剤	収穫前日まで	1,500倍	66g
			サムコルフロアブル10 マイリノー	収穫前日まで	5,000倍 20,000倍	20ml 5ml
17	9月中下旬 （前回防除の 14日後頃）	斑点落葉病、褐斑病、 すす点病、すす斑病、 展着剤	ストライド顆粒水和剤 マイリノー	収穫前日まで	1,500倍 20,000倍	66g 5ml
18	10月上旬 （前回防除の 14日後頃）	斑点落葉病、褐斑病、 すす点病、すす斑病、 展着剤	ベフラン液剤25	収穫前日まで	1,500倍	66ml
			マイリノー		20,000倍	5ml

※1 使用時期の「収穫前日まで」は、散布終了後から収穫まで24時間の経過が必要。

※2 16回目は褐斑病の重要な防除のため、裏面の（3）の褐斑病対策を行ったうえで必ず散布。

### （2）ハダニ類の防除

- ・9月の早生品種収穫後、ハダニ類の発生が見られる場合は、オマイト水和剤（750倍、収穫3日前まで、年間1回）を散布する。ダニ剤の散布前には草刈りを行い、防除効果を高める。
- ・効果を安定させるため単用で散布するとともに、展着剤（マイリノー 20,000倍）を加用する。

### (3) 褐斑病対策

- ・現在、一部で病葉の発生が見られる（写真1）。
- ・ヒコバエが繁茂すると、薬剤がかかりにくくなるので、確実に整理する（写真2）。
- ・樹高が低い園地、大枝の多い園地では、支柱立て、枝つり、枝誘引を積極的に行い、薬剤の到達性を高める。
- ・褐斑病が、発病しているヒコバエや新梢は伝染源となるので切除し、園外に持ち出し処分する（写真2、3）。



写真1 褐斑病の初期病斑



写真2 主枝のヒコバエに発生した病斑



写真3 病斑上の黒粒(分生子堆)  
(ここから胞子が飛散し、被害が拡大)

## 3 今後の管理

### (1) 強風対策

今後の台風等の強風に備え、防風ネットや支柱等の点検を行う。わい性台木園では、支柱との結束を確認する。

### (2) 支柱立て・枝つり

枝が果実の重みで下がり光が樹冠内部まで届かない場所では、枝折れの防止と葉摘み・玉回しによる着色向上効果を上げるため、支柱立てや枝つりを実施する。作業は果実が着色する前に行う。

### (3) 葉摘み・玉回し

着色ムラをなくし、果実の外観をよくする大切な作業である。葉摘みは収穫までに2回に分けて行う。

1回目は着色が始まった頃(右表)に果実に付着する葉を2~3枚とる程度とし、2回目は陽光面が70~80%程度着色した頃に1回目よりも強めに玉回しと併せて行う。

なお、気温が高く着色が遅れている場合は、玉回しを優先して行い、葉摘みは遅らせるようにする。

表 1回目の葉摘み開始時期

品種名	時期
さんさ	8月5日頃~
つがる	8月20日頃~
秋映	9月15日頃~
こうたろう	9月20日頃~
陽光	9月25日頃~
ふじ	9月25日頃~

- ★ 農薬を散布するときは、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。
- ★ 熱中症予防のため、こまめに水分を補給しましょう。